

# 土地改良事業計画概要書

県営津南第二地区  
(変更)

区画整理・農業用排水施設整備  
(中山間地域農業農村総合整備) 事業

# 目 次

第1章 目 的	-----	1
第2章 地域の所在及び現況	-----	2
第1節 地 域	-----	2
第2節 地 積	-----	2
第3節 現 況	-----	3
第4節 地域環境の概況	-----	14
第3章 基本計画	-----	15
第1節 事業計画の要旨	-----	15
第2節 営農計画及び土地利用計画	-----	16
第3節 用水計画	-----	17
第4節 排水計画	-----	21
第5節 道路計画	-----	24
第6節 農用地造成計画（該当なし）	-----	24
第7節 農用地整備計画	-----	25
第4章 工事又は管理の要領	-----	28
第1節 工事の内容	-----	28
第2節 管理の要領	-----	28
第5章 換地計画の要領	-----	29
第6章 費用の概算	-----	31
第7章 効 用	-----	32
第8章 他の事業との関係（該当なし）	-----	33
第9章 計画概要図	-----	34

## 第1章 目的

本地区は、中魚沼郡津南町全域に点在し、一級河川信濃川、一級河川中津川、一級河川志久見川の周辺に広がる約54haの耕地である。

太田新田工区、押付工区の耕地は未整備である。さらに、農道も2.0～3.0m程度と狭幅であり、車両のすれ違いが出来ず、農作業の効率が悪く耕作に支障をきたしている状況である。地区内の小用水路は土水路も多く、二次製品水路も見られるが老朽化しているほか、用排分離がなされていないため、用水の安定供給が出来ず配水管理が困難な状況となっている。排水路は、用排兼用で断面も小さく浅いことから、流下能力が不足し速やかな排水が行えない状況である。

見玉工区は、岩の多くみられる土水路で非常に急勾配となっており維持管理に苦慮している。上郷南部工区は一級河川横平川に設置された頭首工で、右岸側の道路より降りて維持管理しているが、高低差約30mと非常に高く、勾配も急でロープを使って降りる場所もあり非常に危険な状況である。また、造成より50年以上経過し、劣化が著しい。

これらの事態解消のため、区画整理による区画拡大、道水路の再編、農業用排水施設整備による施設改修・補修を実施し、地域の担い手を育成するとともに農業を持続可能な産業とすることが急務である。

## 第2章 地域の所在及び現況

### 第1節 地域

事業名	地域
区画整理・農業用排水施設整備	新潟県中魚沼郡津南町大字秋成、外丸、上郷宮野原 地内

### 第2節 地積

(令和7年2月現在)  
(令和5年8月現在)

事業名	現況地目 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
	区画整理	津南町	7.0	0.3	0.1	-	0.6	8.0
計		7.0	0.3	0.1	-	0.6	8.0	
農業用排水 施設整備	津南町	46.8	-	-	-		46.8	
	計	46.8	-	-	-		46.8	
合 計		53.8	0.3	0.1	-	0.6	54.8	
		53.6	0.3	0.1		0.6	54.6	

### 第3節 現 況

#### 1. 気象及び海象

##### (1) 一般気象

観測所名	津南観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	備考参照	5月～8月	9月～4月		
平均気温 (°C)		19.9	6.1	10.7	気象庁HP1979～2021
降水量	平均 (mm)	602	1,332	1,934	気象庁HP1979～2021
	基準年 (mm)	-	-	-	
降水日数	平均 (日)	54	144	198	気象庁HP1979～2021
	基準年 (日)	-	-	-	
根雪期間		11月26日 ～ 4月1日		126日間	新潟地方气象台 1991～2020
無霜期間		4月1日 ～ 11月26日		240日間	新潟地方气象台 1991～2020
最多風向		S	最大風速 (風向)	20.1m/s ( S )	最多風向発生時期 8月～5月 最大風速発生年月日 2012.4.3

(2) 特殊気象

観測所名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備考
	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
津南観測所																
観測期間																
備考参照																
最大日雨量 (mm)	192.5	2019 10.12	1/40	174.5	2013 9.16	1/25	156.5	2017 10.23	1/15	147	1982 9.12	1/10	139	1998 9.16	1/10	気象庁HP 1976～2023
最大時間雨量 (mm)	62	2005 9.10	-	58	2005 7.30	-	55	1988 8.25	-	49.5	2016 8.2	-	49	2022 8.4	-	気象庁HP 1976～2023
最大4時間雨量 (mm)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
最大連続雨量 (mm)	479	1974	1/50	470	1970	1/40	399	1964	1/20	370	1971	1/10	360	2012	1/10	水文統計資料 1957～2019
最大連続干天日数 (日)	36	1987	1/50	32	1973	1/30	31	1984	1/30	30	2018	1/25	29	1978	1/20	水文統計資料 1957～2019

(3) 海象

該当なし

## 2. 地形、土質及び土壌

本地区は、標高556.19m～207.85mに位置し、地区全体の現況平均勾配は1/29である。本地区は基本的に一級河川信濃川へ向かって傾斜した地形となっている。

### (1) 地形

事業名	地目	田						畑・その他						受益地標高(m)		備考
		1/1,000未満	1/1,000～1/100	1/100～1/20	1/20～1/11.5	1/11.5以上	計	3°未満	3°～8°	8°～15°	15°～20°	20°以上	計	最高	最低	
区面整理	面積 (ha)	-	1.5	5.5 5.3	-	-	7.0 6.8	0.3	-	-	-	-	0.3	556	208	
	比率 (%)	-	21.4 22.1	78.6 77.9	-	-	100.0	100	-	-	-	-	100			
農業用 設置用 排水施	面積 (ha)	-	-	46.8	-	-	46.8	-	-	-	-	-	-			
	比率 (%)	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-			
合計	面積 (ha)	-	1.5	52.3 52.1	-	-	53.8 53.6	0.3	-	-	-	-	0.3			
	比率 (%)	-	2.8 2.8	97.2 97.2	-	-	100.0	100	-	-	-	-	100			

### (2) 地質及び土壌

太田新田工区、押付工区はJ92（礫層土壌－砂土河床型）となっており、排水性は良いが漏水が懸念される。

### 3. 水利状況

#### (1) 用水状況

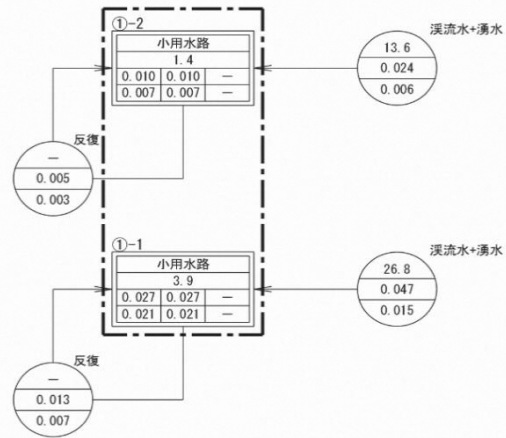
本地区の用水源は、河川、溪流水、湧水となっている。  
押付工区は一級河川小牧川より取水している。  
太田新田工区は溪流水と湧水を水源としている。  
見玉工区の見玉用水路は溪流水を水源としている。  
上郷南部工区の下堰頭首工は一級河川横平川より取水している。

#### (ア) 用水系統

現況用水系統模式図のとおり。

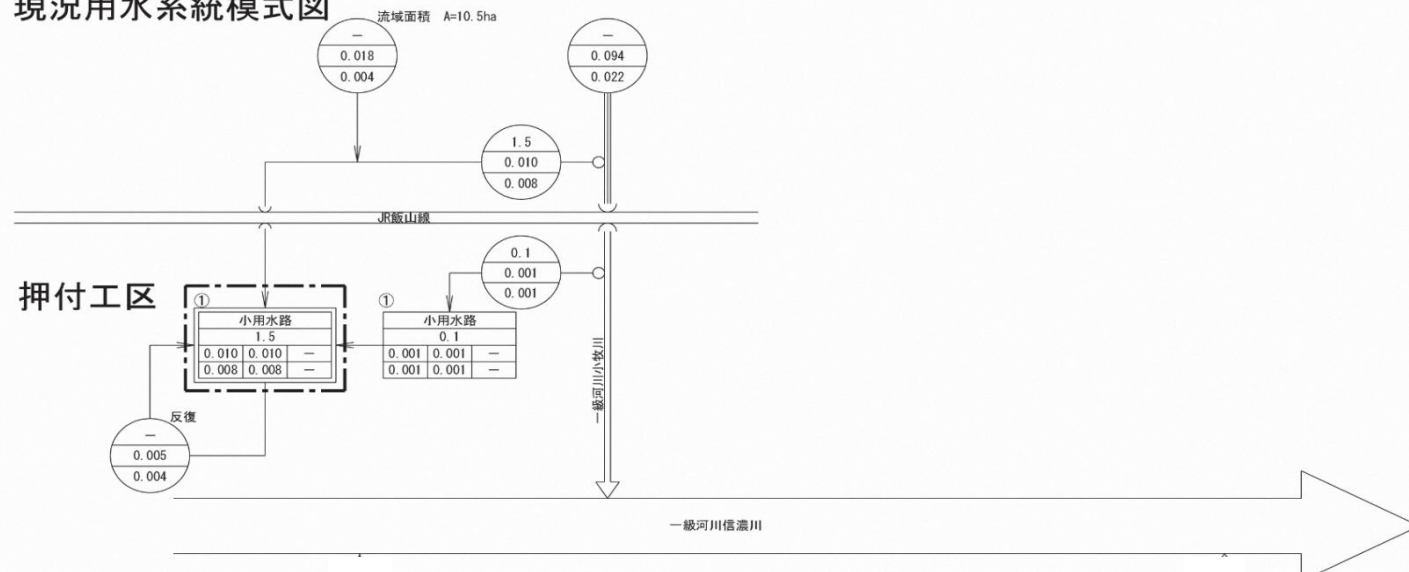
# 現況用水系統模式図

## 太田新田工区



凡 例	
--- (虚線)	地区界(区画整理)
← (実線)	用水路
← (点線)	送水管
--- (虚線)	地区内
--- (虚線)	地区外
--- (虚線)	通水量
--- (虚線)	還元水量

# 現況用水系統模式図



凡 例					
---	地区界(区画整理)				
←	用水路				
←---	送水管				
<table border="1"> <tr><td>送水管名</td></tr> <tr><td>区 界</td></tr> <tr><td>(A) (B) (C) (D)</td></tr> <tr><td>(E) (F) (G)</td></tr> </table>	送水管名	区 界	(A) (B) (C) (D)	(E) (F) (G)	地区内 (A) 代給期所要水量 (B) 代給期普通水量 (C) 普通期所要水量 (D) 普通期普通水量 (E) 不足水量
送水管名					
区 界					
(A) (B) (C) (D)					
(E) (F) (G)					
<table border="1"> <tr><td>送水管名</td></tr> <tr><td>区 界</td></tr> <tr><td>(A) (B) (C)</td></tr> <tr><td>(D) (E) (F)</td></tr> </table>	送水管名	区 界	(A) (B) (C)	(D) (E) (F)	地区外
送水管名					
区 界					
(A) (B) (C)					
(D) (E) (F)					
<table border="1"> <tr><td>区 界</td></tr> <tr><td>(D)</td></tr> <tr><td>(A)</td></tr> </table>	区 界	(D)	(A)	通水量 (D) 代給期 (A) 普通期	
区 界					
(D)					
(A)					
<table border="1"> <tr><td>区 界</td></tr> <tr><td>(D)</td></tr> <tr><td>(A)</td></tr> </table>	区 界	(D)	(A)	還元水量 (D) 代給期 (A) 普通期	
区 界					
(D)					
(A)					

(イ) 用水施設

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計	許可水利権		慣行水利権等		延べ 取水量 m <sup>3</sup> /s	備考	
		500ha以上		500~100ha		100ha未満			箇所	ha	箇所	m <sup>3</sup> /s			箇所
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所					ha		
区画整理	自然取入口	-	-	-	-	1	1.5	1	1.5	-	-	1	0.011	0.011	
	その他	-	-	-	-	2	5.5 5.3	2	5.5 5.3	-	-				
	計	-	-	-	-	3	7.0 6.8	3	7.0 6.8	-	-	1	0.011	0.011	
農業用排水施設整備	小用水路	-	-	-	-	1	5.3	1	5.3	-	-				
	頭首工	-	-	-	-	1	41.5	1	41.5	-	-	1	0.200	0.200	
	計	-	-	-	-	2	46.8	2	46.8	-	-	1	0.200	0.200	
合計		-	-	-	-	5	53.8 53.6	5	53.8 53.6	-	-	2	0.211	0.211	

(ウ) 改修を要する施設一覧表

事業名	項目 施設名	施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年度 又は更新年度	改修を必要とする理由	備考
農業用排水施設整備	用水路	小用水路	5.3	土水路	L=0.2km	-	維持管理費の増大	
	頭首工	下堰頭首工	41.5	現場打コンクリート	N=1.0箇所	S40年代	経年による摩耗等	
	計		46.8					
合計			46.8					

(2) 排水状況

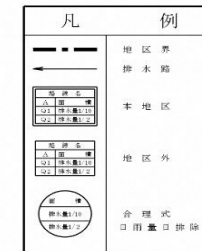
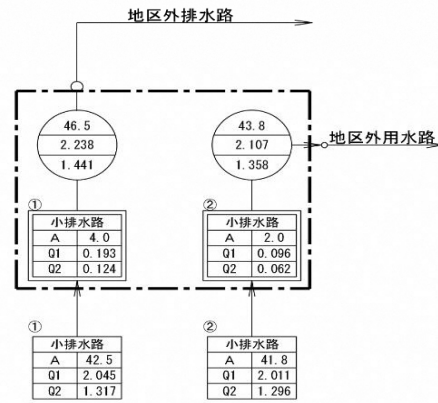
本地区の排水は地区内の小排水路を経て地区外へ排水されるか、隣接する地区外水路を経て一級河川信濃川へ合流する。

(ア) 排水系統

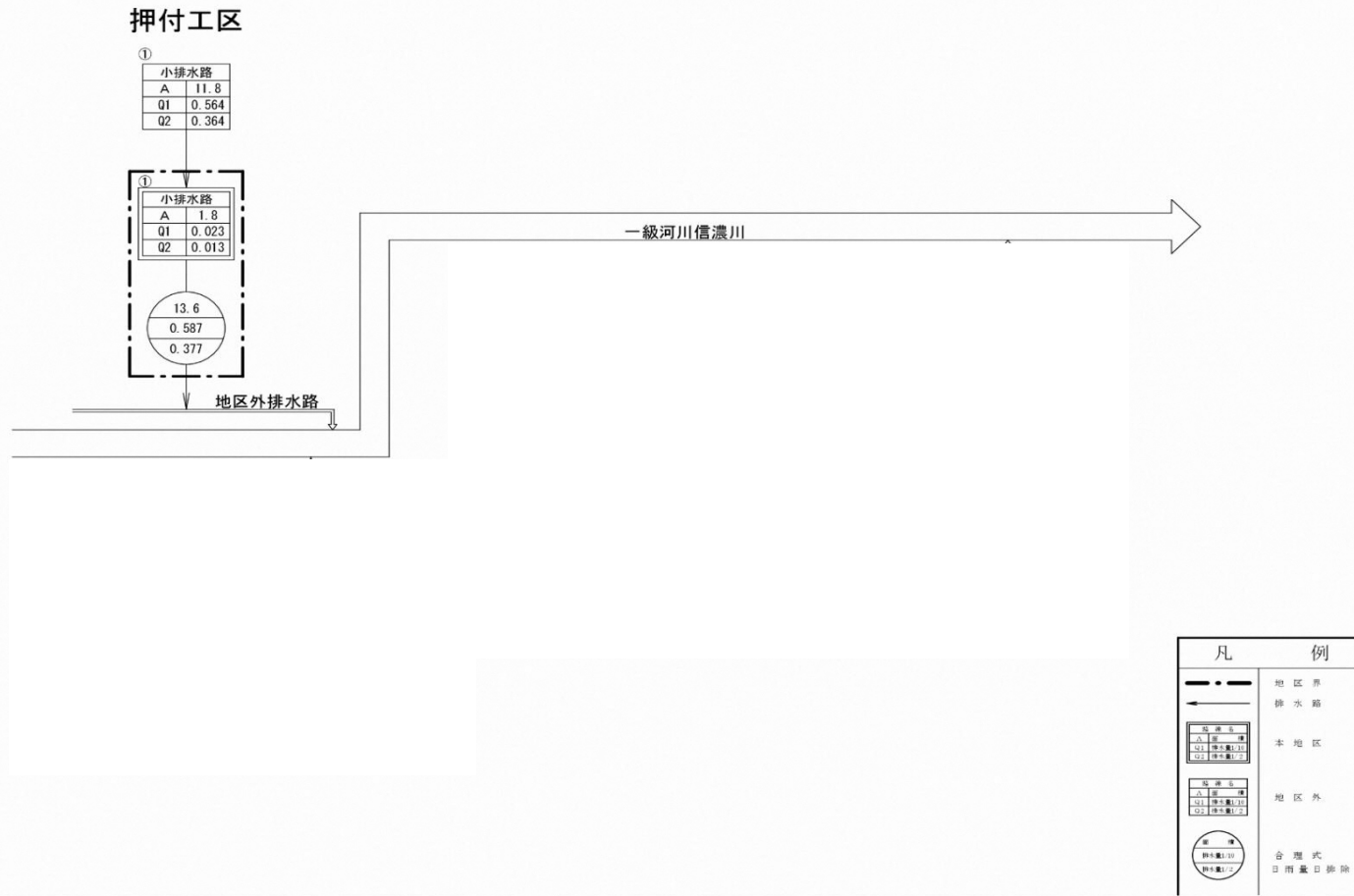
現況排水系統模式図のとおり。

# 現況排水系統模式図

## 太田新田工区



# 現況排水系統模式圖



## (イ) 排水施設

事業名	項目		排水面積						計		排水慣行 ( $m^3/s$ )	現況排水能力 ( $m^3/s$ )		備考
			500ha以上		500～100ha		100ha未満							
	施設名	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
区画整理	自然	小排水路	-	-	-	-	多数	8.0 7.8	多数	8.0 7.8	4.932	4.932		
	機械	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	計		-	-	-	-	多数	8.0 7.8	多数	8.0 7.8	4.932	4.932		
合計		-	-	-	-	多数	8.0 7.8	多数	8.0 7.8	4.932	4.932			

## (ウ) 改修を要する施設一覧表

該当なし

## 4. 河川状況

該当なし

## 5. 道路概況

本地区は、一級河川信濃川右岸沿いに国道117号が東西に走り、交通の要となっている。対岸には主要地方道小千谷十日町津南線が走っている。また、南北には国道405号をはじめ、一般県道 秋成下船渡線、中深見越後田沢停車場線、加用今新田津南停車場線、茶屋峠高原線、結東上郷宮野原線等が走っており国道を要とした流通に対応した地域となっている。

地区内も付近の公道は舗装され整備されているものの、農道は狭幅ですれ違いも出来ない状況である。

## 6. 営農状況

本地区では担い手や農地所有適格法人への農地の集積を進めるに当たり、小規模区画や狭小幅員の農道による低い作業効率、用排水未分離水路であることによる配水管理、維持管理が負担となって大きな障害となっている。

## 第4節 地域環境の概況

### 1 植物・動物等生態系の概況

令和4年7月29日に行われた『生き物調査』では、計画地区周辺において魚類【イワナ】、昆虫類【コオイムシ、オニヤンマ（ヤゴ）】、両生類【アカハライモリ、ハコネサンショウウオ、ヤマアカガエル（幼生）、アズマヒキガエル】、爬虫類【カナヘビ】、貝類【カワニナ】など多様な生物の生息が確認されている。

### 2 その他、地域環境の概況

本地区は、津南町全域に点在し、きれいな水の流れる川と山林に囲まれており地区周辺の水辺には多種の生物が確認されている。

## 第3章 基本計画

### 第1節 事業計画の要旨

#### 1. 要旨

本計画は、区画整理（5.4ha）及び農業用排水施設整備（0.2km, 1箇所）を施工し、耕地の汎用化を図り労働生産性の向上を目指す。よって、農地の集積を促進し地域の担い手農家の育成を目指して事業を実施するものである。

#### 2. 事業別面積

事業名 土地利用区分 事業目的	区画整理						農業用排水施設整備						計 (ha)	備考
	水田	普通畑	牧草畑	果樹園	その他	小計	水田	普通畑	牧草畑	果樹園	その他	小計		
区画整理	5.4	-	-	-	-	5.4	-	-	-	-	-	-	5.4	
農業用排水施設整備	-	-	-	-	-	-	46.2	-	-	-	-	46.2	46.2	
計	5.4	-	-	-	-	5.4	46.2	-	-	-	-	46.2	51.6	

#### 3. 環境との調和への配慮

- ・ 地域の将来像 恵まれた自然、地域風土を生かし、また保全し、健康を感じさせる明るい街づくりを目指す。
- ・ 環境配慮の進め方 生物の生息・生育環境としての農地の整備と生産性の確保との両立を考慮し、生物生息・生育環境の保全に配慮する。
- ・ 維持管理体制 津南郷土地改良区と連携し、地元住民が主体となり日常管理を行う。

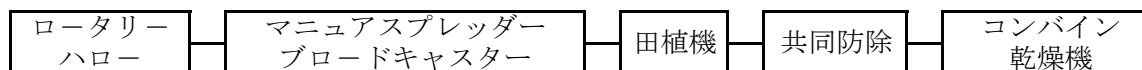
## 第2節 営農計画及び土地利用計画

### 1. 営農計画の概要

a. 経営方式 : 水稻 (単作)

b. 経営組織 : 農地の集団化を図り、大型機械の共同利用を進めると共に土地利用権の集積に努め、農業経営の安定を図る。

c. 作業体系 : (水稻) 耕起整地 → 基肥 → 植付 → 除草防除 → 収穫調製



### 2. 土地利用区分

事業名	土地利用区分		耕地						採草放牧地 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
			水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の樹園地 (ha)						
区画整理	現況	7.0 6.8	0.3 0.3	-	-	-	-	7.3 7.1	-	0.1 0.1	-	0.6 0.6	8.0 7.8	
	計画	5.4 5.4	-	-	-	-	-	5.4 5.4	-	-	-	2.6 2.4	8.0 7.8	
農業用排水施設整備	現況	46.8	-	-	-	-	-	46.8	-	-	-	-	46.8	
	計画	46.2	-	-	-	-	-	46.2	-	-	-	-	46.2	
計	現況	53.8 53.6	0.3 0.3	-	-	-	-	54.1 53.9	-	0.1 0.1	-	0.6 0.6	54.8 54.6	
	計画	51.6 51.6	-	-	-	-	-	51.6 51.6	-	-	-	2.6 2.4	54.2 54.0	

### 第3節 用水計画

#### 1. 計画基準年

昭和40年 : 国営苗場山麓第一地区に準じる。

#### 2. 計画かんがい方式

##### a) かんがい期間

水 田 水 稲 : 5月11日～9月5日 (代掻 5月11日～5月15日) 計 118日

##### b) かんがい方式

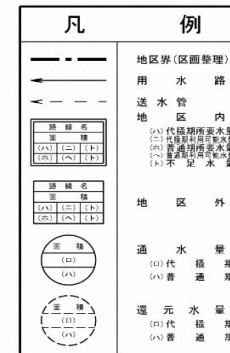
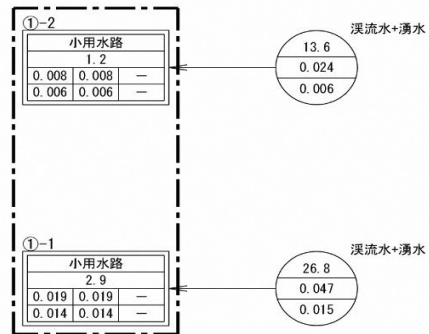
水 稲 : 一筆毎の田面貯留方式

#### 3. 計画用水系統

計画用水系統模式図のとおり。

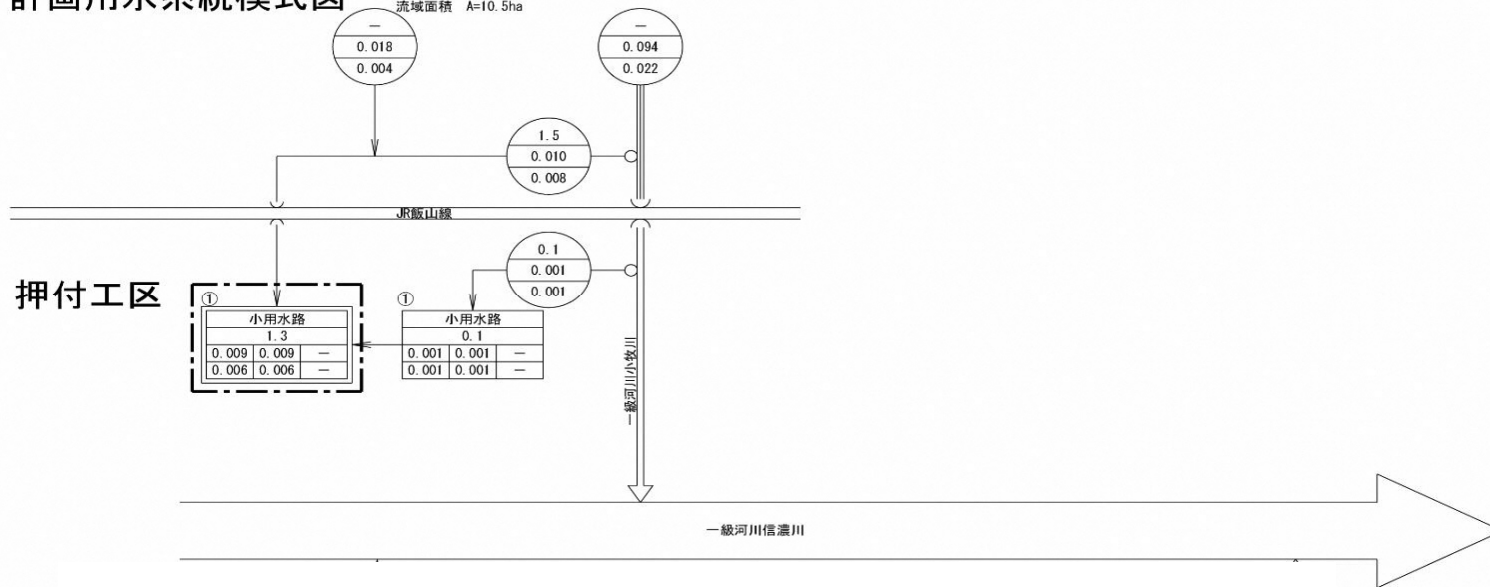
# 計画用水系統模式図

## 太田新田工区



# 計画用水系統模式図

流域面積 A=10.5ha



凡 例	
	地区界(区画整理)
	用水路
	送水管
	地区内
	(N) 代播期所要水量 (二) 代播期利用可能水量 (R) 普通期所要水量 (S) 普通期利用可能水量 (ト) 不足水量
	地区外
	通水量
	(二) 代播期 (S) 普通期
	還元水量
	(二) 代播期 (S) 普通期

4. 計画用水量

系統名	項目	種別	面積 (ha)			水田かんがい		水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m <sup>3</sup> /s)	損失率 (%)	粗用水量		備考	
			区画整理	農業用排水施設整備	計	普通期	代かき期	面 積 (ha)	平均かん水深 一日当たり計画 (mm/日)	平均間断日数 (日)	面 積 (ha)	平均かん水深 一日当たり計画 (mm/日)	平均間断日数 (日)	面 積 (ha)	単 位 用 水 量 計 画 平 均 (mm/日)			面 積 (ha)	平均 (m <sup>3</sup> /s)		最大 (m <sup>3</sup> /s)
						単 位 用 水 量 計 画 平 均 (mm/日)	単 位 用 水 量 計 画 代 か き (mm)														
溪流水+湧水	農業用水	4.1		4.1	38.7	150	4.1						—	—	0.018	10.0	0.020	0.027			
一級河川 小牧川	農業用水	1.3		1.3	38.7	150	1.3						—	—	0.005	10.0	0.006	0.009			
一級河川 横平川	農業用水		40.9	40.9	38.7	150	40.9						—	—	0.170	15.0	0.200	0.200			
溪流水	農業用水		5.3	5.3	38.7	150	5.3						—	—	0.024	15.0	0.028	0.037			
計		5.4	46.2	51.6			51.6								0.217		0.254	0.273			

## 5. 水源計画

該当なし

### 第4節 排水計画

#### 1. 計画基準雨量

最大時間雨量	43.3mm (1/10確率)
最大時間雨量	27.9mm (1/2確率)
最大4時間雨量	79.2mm (1/10確率)
最大4時間雨量	49.4mm (1/2確率)
最大日雨量	135.3mm (1/10確率)
最大日雨量	76.8mm (1/2確率)

気象庁観測データから岩井・角谷法により算出

#### 2. 計画排水方式

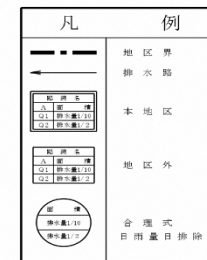
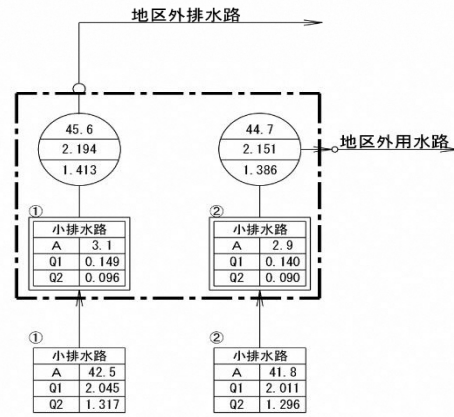
開水路（排水フリーム）、管水路（塩ビ管）による自然排水方式

#### 3. 計画排水系統

計画排水系統模式図のとおり。

# 計画排水系統模式図

## 太田新田工区



# 計画排水系統模式図



凡 例	
	地区界
	排水路
	本地区
	地区外
	合理式日雨量日排除

#### 4. 計画排水量

排水系統名	項目		受益面積 (ha)		流域面積 (km <sup>2</sup> )	基準雨量 (mm)	降雨による直接単位流出量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		基底流出量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		全排水量 (m <sup>3</sup> /s)			備考	
	事業名		計				山地	平地		山地	平地		単位排水量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		
	区画整理	計	山地	平地				山地	平地		平地				
											自然排水	機械排水	山地		平地
一級河川 信濃川	5.4	5.4	0.931	0.054	-	4.81	1.25 ~4.81	-	-	4.620	0.312	-	4.81	1.25 ~4.81	
計	5.4	5.4	0.931	0.054						4.620	0.312	-	4.81	1.25 ~4.81	

#### 第5節 道路計画

##### 1. 道路

番号	項目		幅(有効) × 延長 (m) (km)	構造	既設道路との関係	備考
	路線名					
-	支線道路		5.0(4.0) × 1.5	道路高0.3m~ 側法 1:1.0~ 敷砂利舗装 流用土	農道と接続	

##### 2. 索道

該当なし

#### 第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

長辺×短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
100×30	0.3～	2.6	48.1	0.79	
不整形	～0.3	2.8	51.9	0.79	
計		5.4			

(2) 表土扱い

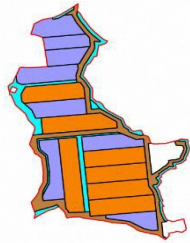
面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (m <sup>3</sup> )	備考
5.4	要：土壌調査の結果及び基盤切盛を行うため	15	8,100	

(3) 末端導水路配置図

標準区画割図参照。

# 標準区画割

## 太田新田工区



## 押付工区



凡	例
	50a以上1ha未満
	30a以上50a未満
	30a未満
	畑
	道路
	水路

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

該当なし

(2) 心土破碎

該当なし

3. 客土

該当なし

4. 農地保全

該当なし

## 第4章 工事又は管理の要領

### 第1節 工事の内容

項 目	工 事 内 容	事 業 量	規 模 ・ 構 造	備 考
田整地	整 地 工	5.4ha	標準区画100×30, 表土扱い15cm	
農道	道 路 工	1.5km	全幅5.0(4.0)m, 敷砂利	
用水路	用水路工	1.0km	自然圧パイプラインVUφ100～200	
排水路	排水路工	1.7km	HF300×300～HF1000×1200, BF300, VUφ200	
見玉用水路	用水路工	0.2km	HF1000×800	
下堰頭首工	頭首工	1.0箇所	現場打コンクリート	

### 第2節 管理の要領

#### 1. 管理者

施設名	管理者	備 考
農道、水路、ファームポンド 取水施設	津南町、津南郷土地改良区	

#### 2. 管理方法に関する基本的事項

施設の管理は、津南町が定める土地改良財産管理計画書、津南郷土地改良区が定める維持管理計画書により行う。

## 第5章 換地計画の要領

### 1. 換地計画樹立の必要性

本事業の趣旨を踏まえ、関係農家の農用地の集団化を進め、農業経営の合理化及び近代化を図り、地域農業の発展に資するよう換地計画を樹立するとともに、担い手農家への農地集積の必要性の啓発に努め、作業委託等の農地流動化や利用権設定等による農地の集積を促進する。

### 2. 換地計画樹立の基本方針

#### (1) 従前の土地の地積の基準

換地区名	地積の基準
太田新田	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画確定の日の登記地積とする。ただし、上記の日から3か月以内に測量士、測量士補又は、土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接土地所有者の同意書を添付して申し出があった場合は、その申し出のあった地積とする。
押付	

#### (2) 農用地集団化の方法

換地 区分	地帯別、グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	一戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
太田新田	1. 営農グループ別集団化 担い手農家が耕作する農用地は、利用権設定、作業受委託の一層の促進を図り、集団的営農に適した位置にできるだけ集団化する。	各人の従前の土地条件（区画形状・日照等）を基準としながら、意向調査等の結果を踏まえて、営農グループ別集団化との調整を図りながら、地域の営農形態が向上するよう地区全体の合理的な土地利用計画を策定し、これに基づき換地の位置を選定して集団化する。	1戸当りの団地数は、概ね1～2団地を目標とする。	固定畦畔とする。
押付				

(3) 非農用地の換地方法

換地区名	区分	種類	非農用地区域の位置の概略	面積 (㎡)	換地の方法	換地取得予定者	その他
太田新田		鉄塔用地	おおむね従前のおおむね	82	特定用途用地換地	東京電力パワーグリッド㈱	

(4) 清算の方法

評価の方法  
標準地比準方式  
清算の方法  
増価額比例地積清算方式

3. 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積

用途	区分	機能交換に係る土地 (ha)				一般国公有地 (ha)	合計 (ha)	備考
		国有地	都道府県有地	市町村有地	計			
道水路		-	-	0.3	0.3	-	0.3	太田新田工区
〃		-	-	0.3	0.3	-	0.3	押付工区
計		-	-	0.6	0.6	-	0.6	

4. 換地処分の際の時期に関する特則

換地区内の区画形状の変更に関わる工事が全て完了し、確定測量が実施されたときは、土地改良法第89条の2第10項で準用する同法第54条第2項本文の規定に関わらず、換地処分ができるものとする。

## 第6章 費用の概算

(単位：千円)

事業名 区分	区画整理	農業用排水 施設整備	合計	備 考
主 要 工 事	333,700 307,000	217,000 217,000	550,700 524,000	7,200 15,500 内工事雑費7,000 内地方事務費15,000
附 帯 工 事				
計	333,700 307,000	217,000 217,000	550,700 524,000	

(単位：千円)

事業名等	区分	工 事 費				工 事 雑 費				地方事務費			
		国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元
区画整理	負 担 率	55%	32%	11%	2%	%	100%	%	%	%	100%	%	%
	負担金額	176,000 161,700	102,400 94,080	35,200 32,340	6,400 5,880		4,200 4,000				9,500 9,000		
農業用排水 施設整備	負 担 率	55%	32%	11%	2%	%	100%	%	%	%	100%	%	%
	負担金額	114,400	66,560	22,880	4,160		3,000				6,000		
合計	負 担 率	55%	32%	11%	2%	%	100%	%	%	%	100%	%	%
	負担金額	290,400 276,100	168,960 160,640	58,080 55,220	10,560 10,040		7,200 7,000				15,500 15,000		

## 第7章 効 用

事業名等	項目	年総効果（便益）額 （千円）	年総増加農業所得額 （千円）	備 考
区 画 整 理	区分			
	作物生産効果	3,716	△ 253	総費用（現在価値化）＝ 247,713 千円
	営農経費節減効果	17,035	17,238	総便益（現在価値化）＝ 402,598 千円
	維持管理費節減効果	△ 150	△ 19	
	耕作放棄防止効果	-		
	農業労働環境改善効果	1,196		総費用総便益比＝ $\frac{402,598}{247,713} = 1.62$
	景観・環境保全効果	305		増加所得償還率＝ $\frac{422}{16,966} = 2.5\%$
	国産農産物安定供給効果	574		
計	22,676	16,966		
農 業 用 排 水 施 設 整 備	作物生産効果	24,365	-	総費用（現在価値化）＝ 350,955 千円
	営農経費節減効果	△ 1,192	-	総便益（現在価値化）＝ 605,698 千円
	維持管理費節減効果	△ 136	-	
	国産農産物安定供給効果	5,747		総費用総便益比＝ $\frac{605,698}{350,955} = 1.72$
				総所得償還率＝ $\frac{299}{13,612} = 2.2\%$
	計	28,784	-	
合 計	作物生産効果	28,081	△ 253	総費用（現在価値化）＝ 598,668 千円
	営農経費節減効果	15,843	17,238	総便益（現在価値化）＝ 1,008,296 千円
	維持管理費節減効果	△ 286	△ 19	
	耕作放棄防止効果	-		
	農業労働環境改善効果	1,196		総費用総便益比＝ $\frac{1,008,296}{598,668} = 1.68$
	景観・環境保全効果	305		総所得償還率＝ $\frac{721}{15,656} = 4.7\%$
	国産農産物安定供給効果	6,321		増加所得償還率＝ $\frac{721}{16,966} = 4.3\%$
	計	51,460	16,966	

## 第8章 他の事業との関係

該当なし

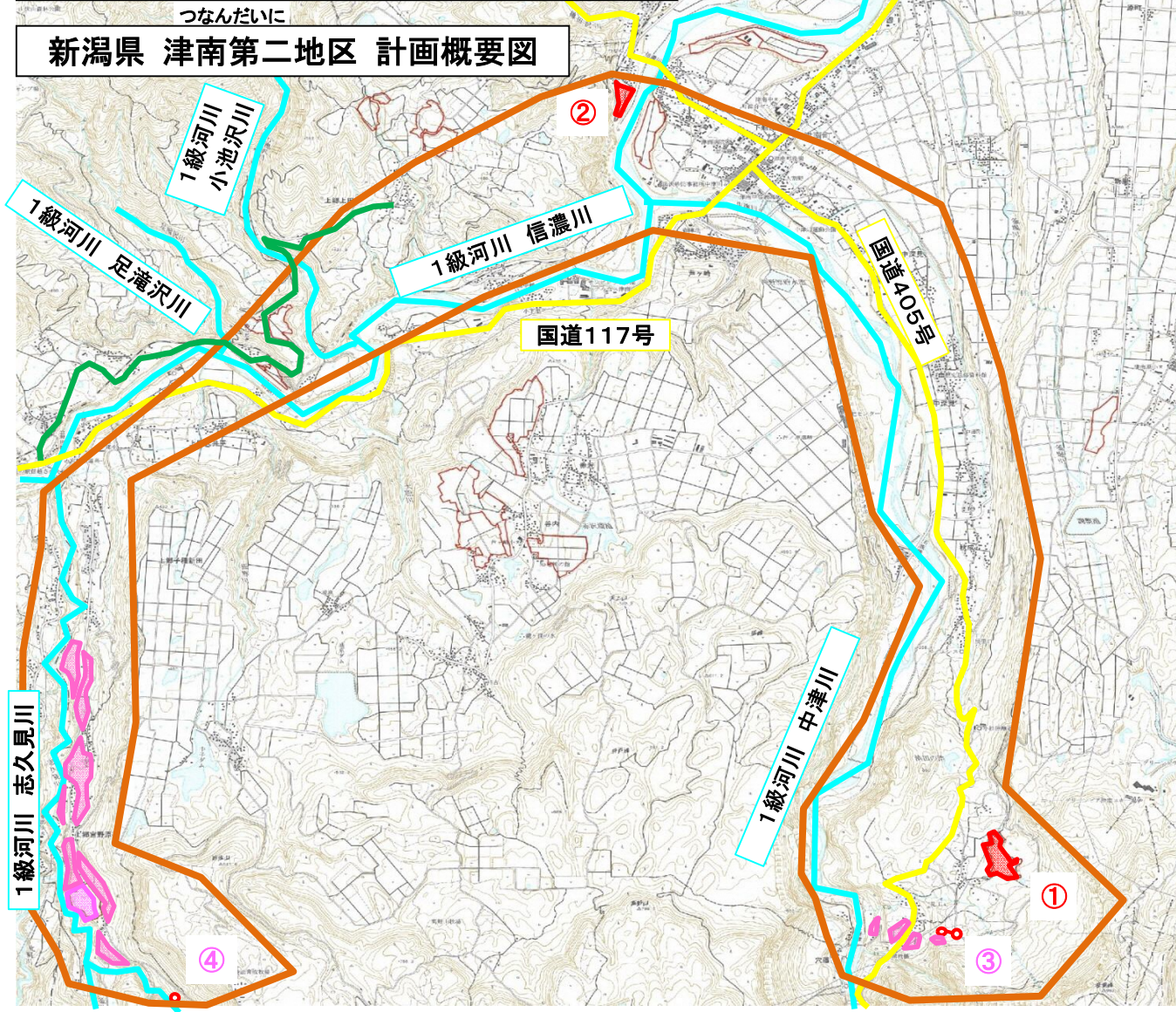
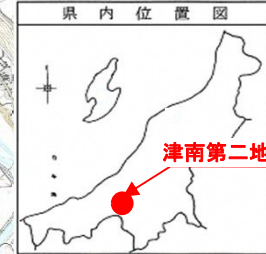
## 第9章 計画概要図

別紙図面のとおり

令和6年度新規採択希望(着工地区)  
 区画整理・農業用排水施設整備  
 (中山間地域農業農村総合整備) 事業

縮尺 1 : 50,000

新潟県 津南第二地区 計画概要図



事業種目	番号	受益面積 (ha)	事業量
ほ場整備	①	4.1	太田新田工区 A= 4.1 ha
	②	1.3	押付工区 A= 1.3 ha
	小計	5.4	2工区 5.4 ha
農業用排水施設整備	③	5.3	見玉工区 L= 233 m
	④	40.9	上郷南部工区 N= 1 箇所
	小計	46.2	2工区
計		51.6	

凡 例	
	事業区域
	国道
	主要地方道
	農業用排水施設整備(用水路)
	農業用排水施設整備(排水路)
	ほ場整備
	暗渠排水
	用水受益